

皆さんの声をまちづくりに活かすために

ハートフル対話2011を開催

たくさんのご参加・ご意見ありがとうございました



町では、町民の皆さんと町政について語り合う座談会「ハートフル対話2011」を、9月26日から11月24日にかけて開催しました。今年度は、きめ細かく町民の皆さんのご意見を伺うため、町内の17会場で計21回開催し、約500人の方にご参加いただきました。

ご参加いただいた方々、また対話の開催にあたりご協力いただいた各区長の皆様にお礼申し上げます。

ハ

ートフル対話は、山口町長と町民の皆さんがまちづくりについて意見交換を行うことで、町政について一層の理解とご関心を持っていただくとともに、各会場で伺ったご意見をまちづくりに活かすことを目的に、平成11年から毎年開催しています。

今回のハートフル対話では、福島第一発電所事故後の町の対応や、重点施策である「健康づくりの推進」・「生涯学習の推進」・「協働の推進」等について説明しまし

た。その後、ご参加いただいた方からのご質問やご意見に対して、山口町長が説明や回答を行いました。

広報みはまでは、対話の様子を昨年の11月号から掲載してきました。今月号でも、対話の中でいただいたご質問やご意見の一部を紹介します。



町の歳入について

問 原子力に関係する国からの交付金は、町の歳入で大きな割合を占めていると思いますが、今後の見通しを教えてください。

答 美浜中学校をはじめ、生涯学習センターや保育園の整備は、原子力関係の交付金を活用して建設しています。

現段階では、国のエネルギー施策の動向が不透明なため、見通しを立てることは困難です。

今後、交付金が減少することも予想されますので、平成24年度の予算や振興計画については、交付金額の確定後に施策の調整をすることになっています。しかし、重要施策については、今年度に基金を積み立てる等して、優先的に取り組んでいきます。

自然エネルギーの推進について

問 原子力発電に代わり、水力や風力、バイオマス等の自然エネルギーを推進し、雇用もそこで賄うような施策を進めるべきではないでしょうか。

答 私も、自然エネルギーは重要で、推進していくべきと思っています。

しかしながら、今後必要とされる電力をそのみで補うのは困難であり、また地球環境に配慮すると今後

も原子力は重要であると思います。

今後の原子力行政については、国の動向を注視し、いろいろな人の意見をお聞きしながら議論していきたいと考えています。

滋賀県への避難道路について

問 原子力発電所の事故に備えて、滋賀県へ抜ける避難道路を整備してください。

答 新庄から滋賀県へ抜ける道路については、平成9年3月に、旧今津町(現高島市)と「美浜今津地域交流促進協議会」を設立し、検討してきました。協議会では、国や滋賀県、福井県に要望書を提出したり、数箇所のルートを選定し概算の事業費を算出する等の活動を進めました。しかしながら、工事が多額になる等課題も多くあるため、その後の協議は休止状態となっていました。

その後、平成14年10月に、今津町を含む滋賀県高島郡6町村の合併に向けて「高島地域合併協議会」が設立され、同合併協議会では、「美浜今津地域交流促進協議会」の今後の活動については、合併以降に検討することとなりました。平成17年1月に、合併による高島市が誕生しましたが、協議会は設置できておりません。町では、避難道路の必要性につい

て県へ要望しています。今年度、県は道路整備の概略調査に乗り出しましたので、その結果が出た際には、説明させてほしいと考えています。

また、地元区でも期成同盟会を結成する等、応援をいただければありがたいです。

コミュニティバスについて

問 コミュニティバスのダイヤをもっときめ細かくしていただけないでしょうか。電車との接続が悪いように感じます。

答 現在、町では、コミュニティバスを3路線走らせており、ダイヤの編成にあたっては、学校の始業時間や他の公共交通機関との接続に可能な限り配慮しているところです。

ダイヤについては、住民代表の方や事業者、学識経験者等で構成される地域公共交通会議で審議しています。バスの本数を増やすことは困難ですが、時間の変更は可能ですので、町住民環境課(☎32-67003)までご意見をお願いします。

原子力防災訓練について

問 原子力発電所の事故に備えた避難訓練について、今後の方針を教えてください。

答 これまで町では、国の防災指針に則り、福井県とともに訓練を実施してきました。訓練では、美浜発電所で冷却機能を全て喪失する事故が発生し、放射性物質の一部が環境中へ放出されたとの想定で、EPNZ(防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲・発電所から8〜10km)内の住民に対し、避難や屋内退避の指示等を行うというものでした。

現在、国では、福島第一原子力発電所の事故を踏まえて、避難範囲やその他の想定についても見直しが進められているところです。

町では、今後、国の新たな方針が提示され次第、福井県とも連携しながら、避難訓練の実施方法を検討していきたいと考えています。なお、今までの考え方が大きく変更となる場合は、皆さんにしっかりと説明したいと思っています。



↑平成21年度に行われた福井県原子力防災訓練でのスクリーニング検査



ご存知ですか？

治太やんBOX・ 治太やんメール



↑ 町役場(1階町民プラザ)に設置している治太やんBOX

町では、町民の皆さんにまちづくりに対してのご意見やご質問等をいただくための窓口として、お手紙でいただく「治太やんBOX」、電子メールやホームページからいただく「治太やんメール」を設置しています。

皆さんからお寄せいただいたご意見等は、山口町長が必ず読み、回答を送らせていただいています。

「治太やんBOX」は平成11年6月から、「治太やんメール」は平成13年5月から運用しており、平成22年度には、BOXに9件、メールに12件のご意見やご質問をいただいています。

町に対する「ご意見」・「ご要望」をお聞かせください！

※「治太やんBOX・治太やんメール」は常時受け付けています。

治太やんBOX

- 町役場(1階町民プラザ)
- 東部診療所
- 丹生診療所
- 総合体育館
- 保健福祉センター「はあとぴあ」(1階ふれあい広場)



↑ 診療所等に設置している治太やんBOX

治太やんメール

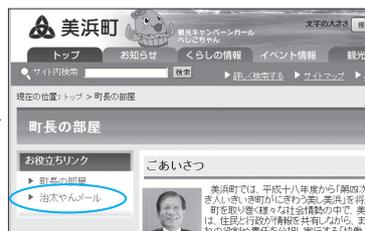
- 次のメールアドレスに直接送信してください。

jitayan@town.mihama.fukui.jp

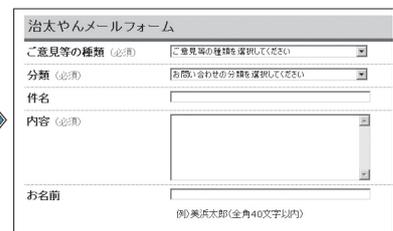
- 町ホームページ (<http://www.town.mihama.fukui.jp>) を利用し送信してください。



① トップページ「町長の部屋」をクリック



② 「治太やんメール」をクリック



③ 「治太やんメールフォーム」にご意見等を記入し、送信してください。



「治太やんBOX・治太やんメール」を利用される場合、必ず住所と氏名の記入をお願いします。せっかく貴重なご意見をいただいても、氏名等が記入されていない場合、町長から具体的な回答をお届けすることができません。

※お問い合わせ先 町企画政策課 (担当・宇都宮) ☎ 32-6701



今回は、皆さんからBOXやメールにいただいたご意見と
そのご意見に対する町の対応の一部を紹介いたします。

美浜駅のバリアフリー化について

問 美浜駅を利用し、子どもと一緒に旅行へ出かけたのですが、ベビーカーと2歳の子を抱えての階段の昇り降りにかなり苦勞しました。駅にスロープを設置してもらえないでしょうか？

答 美浜駅舎のバリアフリー化については、過去にJR西日本様に対して要望活動を行った経緯があります。その際の回答は、現在の法律(通称…バリアフリー新法)では、1日平均5,000人以上の利用者がある施設についてはバリアフリー化を行わなければならないませんが、JR美浜駅については、1日平均の利用者数が300人にも満たないため、早急な整備については困難であるとのことでした。

しかしながら、今後、皆さんがより快適に小浜線を利用していただくためにも、引き続き要望活動は続けていきたいと考えています。

現在、JR美浜駅では、ベビーカーを含む介助等が必要な方の階段の昇降については、駅窓口へお申し出いただければ、駅員がベビーカー

や車イス(乗られたまま)の運搬をお手伝いする等の対応をしています。

今後、さらにお気軽に利用していただけるように、現在、この利用についての案内板と駅員を呼び出すためのブザーの設置について検討しているところです。

利用される皆さんが、気持ちよく駅舎を利用できるよう日々努めていますので、介助等が必要な場合等は遠慮なく駅員までお申し出いただきますようお願いいたします。

! 呼び出しブザーは、平成22年12月に、両ホームの階段上り口付近に、それぞれ1つずつ設置しました。また、トイレには、防犯ブザーを設置しました。お気軽にご利用ください。



↑設置した呼び出しブザー

町の職員数について

問 町民1人あたりの町職員数が多いように思うのですが…

答 町民1人あたりの職員数は、各市町の実態や政策等によって必要数も変わり単純に人口だけで比較はできませんが、美浜町が類似人口の他町と比較して多い状況となっているのは、農業や水産業、商工観光業と幅広い産業を有しており、また原子力発電所の立地町であることも職員数の多い要因としてあげられます。

現在、町では、行財政改革の一環として職員数の削減に向けて努力し、毎年計画的に実施しています。平成15年当時246人の職員数を現在では201人まで削減しており、今後も目標を定め、更に削減を図っていきたく考えております。

しかし、職員数の削減によって住民サービスの低下を招くおそれもあるため、併せて職員の人材育成と事務事業の見直しを図ることで、効率的な行政運営にも努めています。

事務改善と職員数の削減を、積極的に進めている現状をご理解いただきますようお願いいたします。

また、今後は、町職員だけで行政を行うのではなく、住民の皆さんが行政に参画していただき、協働でまちづくりを進めることが必要となっ

ていますので、これにつきましてもご協力をお願いいたします。

総合運動公園の遊具について

問 先日、子どもを連れて総合運動公園へ遊びに行きましたが、一部の遊具が老朽化していました。遊具の入れ替え等を検討してください。

答 総合運動公園の遊具については、定期的に点検を実施しており、老朽化したものについては撤去等の処置を行っております。

総合運動公園も球場等の建設から20年余りが経過していますので、今後、施設調査を実施し、全体のリフレッシュ計画の策定を検討していきます。

その計画のもと、施設建設のみならず遊具の点検等も含めた維持管理をしつかりと行い、子どもの遊び場としてのスペースもきっちり確保していきたいと考えています。

! 本年度、古い遊具を修繕し、新たに滑り台と幼児向けコンビネーション遊具を設置しました。

また、芝生広場も整備しました。



↑リニューアルした遊具

冬場の節電対策

福井県と町役場の取り組み

昨 年の広報みはま11月号で、冬も電力不足による節電対策が必要になることをお伝えしました。

それを受けて、福井県と町役場でも、それぞれ冬の節電対策に取り組みます。

今月号では、その内容について紹介します。

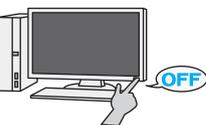
福井県の取り組み

福井県では、夏の「クールライフプロジェクト」に引き続き「あったかライフプロジェクト」を実施しており、県庁内での取り組みのほかに、家庭や職場での取り組みについても提案しています。

① 県庁編

【目標】

「無理せず節電10%」



平成23年12月1日～

平成24年3月20日

【実施内容】

- 暖房温度を18度に設定
- 不要な電灯の消灯徹底
- パソコン、コピー機の使用を制限

○ 通常の「3アップ、4ダウン運動」にプラスした「4アップ、5ダウン」運動の実施

○ 電気温水器、空調機の使用時間を短縮

○ ペットボトル湯たんぽの活用

② 家庭編

【目標】

「無理せずうちエコ節電生活」

【取り組み例】

○ 家族揃って一部屋で団らん

○ 重ね着して、室温設定は20度以下に

○ 窓に断熱シートを設置

等

③ 職場編

【目標】

「職場で一工夫あったかビズ」

【取り組み例】

○ 暖房の設定温度は20度以下に

○ 職場での一枚重ね着運動

○ エレベータを使用せず階段を利用する

等

町役場の取り組み

町役場では、「美浜町環境基本計画」に基づき、暖房の使用を減らすことでCO₂発生を抑え地球温暖化を防止するとともに、過度に暖房に頼らないビジネススタイルの定着を推進するため、適温暖房の徹底とそれに応じた服装での勤務を奨励します。

【実施期間】

平成23年12月1日～

平成24年3月31日

【実施内容】

○ 適温暖房に対応した服装（ウォームビズ）の推進

○ 室温が18度以下の場合のみ暖房を使用し、室温は18度で維持されるよう設定する

○ 厳冬期を除き平日は午後4時30分で暖房を切る

等

※お問い合わせ先

町住民環境課(担当:田村)

☎ 32-6703



町役場・美浜町社会福祉協議会でのペットボトルキャップの受入終了について

町役場と美浜町社会福祉協議会では、ごみの減量化及びポリオワクチンの購入助成を目的に、町内の個人・団体・事業所から持ち込まれたペットボトルキャップを、県内の指定機関に持ち込む活動を行ってきました。これまでの活動で、ペットボトルキャップ約30万個(ポリオワクチン約375人分)を提供することができ、ごみ減量化への意識啓発及びポリオワクチンの購入助成に、一定の成果を上げることができました。ご協力ありがとうございました。

なお、町役場と美浜町社会福祉協議会でのペットボトルキャップの受け入れは、平成24年3月31日をもって終了させていただきます。今後は、直接指定機関へ持ち込んでいただきますようお願いいたします。

[指定機関：アルパレット株式会社 (坂井市丸岡町小黑68-12)]



美浜発電所の状況



今回の報告では、11月18日から12月16日までの美浜発電所の状況等についてお知らせします。

美浜1号機

第25回定期検査中

(平成22年11月24日)

美浜2号機

A・加圧器スプレ弁グラウンド

リークオフ流量増加により停止中

(平成23年12月8日)

※平成23年12月18日から第27回定期検査

美浜3号機

第25回定期検査中

(平成23年5月14日)

福井県原子力発電所所在市町協議会で
国へ慎重なエネルギー政策議論を要請

11月29日と30日に、原子力発電所が立地する県内4市町の首長、議長で構成する「福井県原子力発電所所在市町協議会(以下、立地協)」(会長・山口美浜町長は、福島第一原子力発電所事故を踏まえて始まったエネルギー政策議論に直接的に関与する、枝野経済産業大臣や古川国家戦略担当大臣等に対し、原子力利用の現実を踏まえるとともに国家の将来のあり方も見据えた中長期的な視点から、原子力政策の堅持を含む慎重、冷静なエネルギー政策議論が進められるよう、直接要請書を手渡して対応を求めました。

国では、福島第一原子力発電所事故を踏まえて、2030年(平成42年)には原子力発電の比率を53%まで高めるとした昨年策定の「エネルギー基本計画」を白紙から見直すとして、関係閣僚で構成する「エネルギー



↑枝野経産大臣に全9項目を記した要請書を手渡す山口町長

ギー・環境会議」を設置し、来年夏頃には「革新的エネルギー・環境戦略」として、国民的議論を踏まえた新たなエネルギーベストミックスや分散型のエネルギーシステムに関する基本理念を示すとされています。

また、「エネルギー・環境会議」では、年末までに発電コストの検証等、関係機関での検討をチェックしつつ、基本的方針を取りまとめるとの考えを夏に中間整理として示しました。このため、立地協では、慎重な議論を欠いた「脱原発」「縮原発」等が大勢を占めるかのような状況に危機感を募らせるとともに立地地域の原子力発電に対する考えを政策議論に反映してもらうべく要請のタイミングを計っていたものです。

【要請内容】

- ・福島第一原子力発電所事故の一刻も早い収束
- ・被災地域住民の一日も早い帰還の実現
- ・住民の健康影響の詳細な調査と説明
- ・安全対策と一体的な防災対策の充実
- ・原子力政策の早期明確化
- ・原子力発電技術の継続ある発展
- ・計画的な新增設への取り組み
- ・原子力発電所へのアクセス道路(災害制圧道路)の多重化・多様化
- ・若狭湾沖等へのGPS波浪計の設置とナウファスを活用した津波情報提供体制の整備

この要請を受け、枝野経済産業大臣は、「これまで国のエネルギー政策に協力いただいていたことは忘れてはならず、これまで皆さんに約束してきたことについては守っていくというのが最低限の責任だと思っている。そうした中で、原子力政策をこれからどうしていくのか、しっかりとした議論の上で、立地地域ともコミュニケーションをしっかりと取りながら、できるだけ早く国の方向をまとめていきたい。また、政策仕分けでの、電源交付金の安全対策への充當については、国がやってきた安全対策を地方に転嫁するというようなことではなく、要請の道路やGPS波浪計については、できるだけ早くやらなければと思っている。予算等の確保に努力をした」と応えました。

エネルギー・環境会議の議長である古川大臣は、「立地地域からの意見として重く受け止めており、来年3月末までにはエネルギーベストミックスのいくつかの選択肢を示した上で、国民的な議論を経て来夏頃には政策を取りまとめるが、そうした議論の中でしっかりと踏まえていきたい」と応えました。

福井県原子力発電所所在市町協議会では、今後も、引き続き会員間の連携を図りながら、原子力発電に係る課題や問題等に取り組みんでいきます。